

青少年における性に関する情報源と 性に対するイメージの関連性

河村 洋子

熊本大学政策創造研究教育センター 准教授

本研究は、青少年の性に関する情報源の活用の実態を把握し、情報源と性のイメージの関係を検証することを目的とし、第6回青少年の性行動調査¹⁾のデータ*の二次分析を行った。個人の特徴による性交関連の情報源の種類と活用のしかたの違いと、友人、恋人、先輩など身近な人間関係による、あるいはコミック、AV、インターネットの媒体による性交の情報源では、活用のしかたと性のイメージとの関連性が確認できた。今後必要な詳細かつ高次の分析の前段階として、青少年を取り巻く情報環境との関係の中で、青少年の健全な性行動につながる性に関する意識や態度の醸成に向けた施策を考える必要性を再確認する結果を示した。

1. 背景

わが国では近年、性の問題に限らず、青少年の健全な育成のため、情報環境の整備が進められている。未成年者でのインターネットの普及率が極めて高くなり、ネット上では青少年にとって不適切な情報が氾濫しているという状況を踏まえ、平成20年6月、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（青少年インターネット環境整備法）が成立し、平成21年4月1日より施行された²⁾。また、平成22年12月に東京都青少年健全育成条例改正案が議会で可決・成立し、平成23年7月より施行されることとなった³⁾。この改正により、漫画やアニメーションも性的描写の規制の対象になるとともに、青少年のインターネット利用とその他の媒体販売などの環境整備強化のために、行政、事業者、保護者の責任がさらに強く求められるようになる。

このような東京都の動きは、社会が青少年の情報環境の現実について再考し、議論が活性化する機会となった。青少年の性について、メディアが与える影響は国際的な多くの研究で示されている^{4,5)}。しかし、立法や施策としてのマスメディアへの介入の議論において、民主主義社会における「表現の自由」との対立が大きな問題となる。また、情報化社会を完全にコントロールすることは、現実的ではない。したがって、情報を受け取る側の力「メディアリテラシー」の向上も重要であろう⁶⁾。さらに、青少年の性については、異なる情報源が異なる影響を与えるという欧米の研究もあり^{7,12)}、友人や親など身近な人間関係の重要性にも目を向ける必要性が示唆されている。青少年の性関連行動や意識に異なる影響を与える情報源へは、異なる対処が必要である。我が国の青少年において、性関連の意識や態度、行動に情報源はどのような影響を与えているのか、検証してみることで健

*本研究に用いたデータは、「社会・意識調査データベースSORD作成プロジェクト」事務局に提供された日本性教育協会が共同で実施した第6回青少年の性行動全国調査（研究代表者：原純輔）データを、著者が使用の申請をし、許可を得て入手、使用した。

全な性意識や態度を醸成し、行動を促す具体的かつ有用なアプローチを検討する材料とすることができると思える。

2. 目的

以上のような観点から、本研究は青少年の性に関する情報の情報源活用の実態の把握、および情報源と性に関するイメージの関連性を検証するために探索的分析を行うことを目的とした。

3. 方法

本研究は、第6回青少年の性行動調査¹⁾のデータを対象に二次分析を行った。

(1) 青少年の性行動調査

この調査は、1974年からほぼ6年おき（1981年、1987年、1993年、1999年、2005年）に中学生以上の青少年を対象に、青少年の性に関する行動や意識の時系列的な追跡を主な目的として、実施されている。特に、第3回の1987年からは、町村および大学生・短期大学生のサンプルも加え、地域的、年齢的な偏りのない青少年の性行動の現状の把握が可能になった。この調査は、第1回から同一の調査項目を含めることで、経年比較を可能にする一方、社会の変化に応じた調査項目を入れることで、時折の問題・課題を浮き彫りにすることができるという特徴を持っている。たとえば、1993年以降、性的被害の経験の項目が加えられている。また、本研究が分析の対象とした第6回では特に、社会の情報化による青少年に対する影響に焦点を当て、携帯電話の利用と友人関係のあり方、インターネットによる性情報への暴露と性行動の違いの関係性を検証するための調査項目が入れられていることが特徴的である。

本研究が分析対象とした第6回調査データには、大都市、中都市、町村の各4地点から、中、高、専門、大学生がサンプリングされ、5,510名分の有効回答が含まれている¹⁾。

(2) 変数

分析では性のイメージ、性交の情報源、そして性別、年齢、学校種別、地域、そして性交経験の変数を用いた。

1) 性のイメージ

性のイメージは、「あなたは「性」とか「セックス」という言葉について、どのようなイメージをもっていますか」という問いとともに、「明るさ」、「楽しさ」、「きれいさ」、「よさ」、「軽さ」、「恥ずかしさ」の6つ形容について4段階で回答する質問項目を利用した。たとえば、「明るさ」について、回答者は「1. 明るい」、「2. どちらかといえば明るい」、「3. どちらかといえば暗い」、「4. 暗い」の中から一つを選択する。分析に際して、1から4を4から1としてリコードし、1から4の点数の尺度として扱うこととした。

2) 性交の情報源

調査票中の、男女交際、性交、避妊についての情報源として、「1. 親きょうだい」「2. 友人」「3. 恋人」「4. 先輩」「5. 教師」「6. 教科書」「7. コミックス／雑誌」（以下、コミックス）「8. ポルノ雑誌（H雑）／アダルトビデオ」（以下、AV）「9. インターネッ

ト」「10. その他」「10. とくになし」の中から、それぞれ3つずつ選択する質問の中から、性交の情報源のみを分析対象とした。それぞれ、選択されていれば1、選択されていなければ0とされる。

さらに、情報源として選択されている項目数を算出し、0から最多で3つのうち、2つ以上（2、または3）を「複数選択あり」とし、0または1を「複数選択なし」とする変数（「情報源複数選択」）を作成した。この変数と選択された情報源の変数を組み合わせることで、単独の情報源として選択された場合と、複数の情報源のうちの一つとして選択された場合を区別することを可能にした。したがって、性交情報源については1から10項目と「情報源複数選択」を掛け合わせた4つのグループ「選択なし、情報源1つ以下」「選択あり、情報源2つ以上」「選択あり、情報源1つ以下」「選択あり、情報源2つ以上」からなるカテゴリ変数として扱った。

3) 個人の特徴

基本属性である性別（男子、女子）、学校種別（中学校、高等学校（普通科）、高等学校（職業科）、専門学校、大学（国公立）、大学（私立））、そして地域（大都市、中都市、町村）はカテゴリ変数、そして年齢は尺度変数として扱った。

性交の情報源および性のイメージ双方と相関が想定される性交経験を分析に含めることとしたが、これは質問紙の中で「あなたはいままでに、セックス（性交）の経験がありますか」という問いに対し回答者が「1. ある」または「2. ない」を選択する質問項目を利用した。

(3) 分析方法

1) 性交情報源の違い

個人の特徴のうちカテゴリ変数である性別、学校種別、地域、性交経験による性交情報源の活用の違いについてクロス集計を行い、分布を検証した。また尺度変数である年齢は、性交情報源の4グループの平均を算出した。

2) 性のイメージとの関連

性のイメージについて、まず主成分分析による因子分析を行い、因子得点を算出した。個人の特徴の4つのカテゴリ変数および、10つの性交情報源についてはカテゴリ間の6つの個別のイメージの尺度変数と算出された因子得点それぞれの平均を比較するために、一元配置分散分析を行った。年齢は一般線形モデル（以下、GLM）を用いて分析を行った。

次に、性交情報源の変数と性のイメージの関連性をみるために、性のイメージの点数を従属変数とし、10つの性交情報源と「特になし」を独立変数としてGLMを用いて統計解析を行った。さらに次の段階として、個人の特徴の5変数を加え同様にGLMを用いて統計解析を行った。11の性交情報源変数のみのモデル、および個人の特徴の5変数を加えたモデルそれぞれのR²乗値およびモデル内の各変数のF値を検証した。

なお、統計解析はSPSSVer.18を利用した。

4. 分析結果

(1) 回答者の記述統計

平均年齢は16.4歳（SD = 2.75）で、最少は12歳、最高は30歳であった。個人の特徴に

関するカテゴリ変数の分布を表一 1 に示した。男女はそれぞれ50.0% (N = 2,755) で、学校種別では中学校がもっとも多く39.7% (N = 2,187)、続いて31.9% (N = 1,759) が高等学校 (普通科)、12.3% (N = 677) が大学 (私立) と続いた。地域別では大都市がもっとも多く47.1% (N = 2,593) を占めた。回答者のうち、26.3% (N = 1,422) が性交経験ありと報告した。

表一 1 性別、学校種別、地域、性交経験の分布

		度数 (N)	%
性別	男	2755	50.0
	女	2755	50.0
学校種別	中学	2187	39.7
	高等学校 (普通科)	1759	31.9
	高等学校 (職業科)	420	7.6
	専門学校	66	1.2
	大学 (国公立)	401	7.3
	大学 (私立)	677	12.3
地域	大都市	2593	47.1
	中都市	1747	31.7
	町村	1170	21.2
性交経験	ある	1422	26.3
	ない	3978	73.7

(2) 性交に関する情報源

選択された性交情報源種類と数の分布の様子を表一 2 に示した。約半数 (49.9%、N = 2,573) の回答者が友人を選択し、コミックス (31.3%、N = 1,617)、AV (23.5%、N = 1,214)、教科書 (18.9%、N = 974) と続いた。16.9% (N = 874) が特になしと回答している。6割以上が性交に関する情報源として2つ以上のものを選択した。

表一 2 選択された情報源の種類と数の分布

性交の情報源 (N=5160)		度数 (N)	%	
種類	親きょうだい	217	4.2	
	友人	2573	49.9	
	恋人	716	13.9	
	先輩	850	16.5	
	教師	392	7.6	
	授業教科書	974	18.9	
	コミックス	1617	31.3	
	AV	1214	23.5	
	インターネット	828	16.0	
	その他	74	1.4	
	特になし	874	16.9	
	数	0	874	16.9
		1	1085	21.0
2		1233	23.9	
3		1968	38.1	

次に、表一 3 は個人の特徴と、性交情報源の種類と複数の選択があるかどうかにより作成した4つのグループからなる変数による分布を示している。

性別による違いを見てみると、女子では男子と比較して恋人を、特に複数の情報源の一つとして活用している。同様の傾向は、教科書とコミックスで見られる。一方男子では、AVとインターネットを複数の情報源の一つとして活用している割合が女子より高かった。

学校種別では、中学生では友人が性交情報源として選択される割合は全般的に低く、選択される場合、他の高学年カテゴリでは複数のものとして選択される傾向が強いのに対し、唯一のものとして選択される傾向が見受けられた。特に専門学校生では、友人と恋人が複数の性交情報源の一つとして選択される割合が他と比較して際立って高く、恋人は国公立と私立の大学生でも約4分の1の割合で複数の情報源のうちの1つとして選択された。先輩、教師、教科書は高校生に複数のものの一つとして選択される割合が比較的高かった。

コミックスとAVは大学生が複数のものの一つとして選択する割合が高い。またこれらの2つについて、職業科の高校生が普通科の高校生と比較して若干高め傾向が特徴的である。インターネットは、大学生が複数のものの一つとして選択する割合が高く、約4分の1が選択した。

次に、地域別に見てみると、大都市では、恋人が性交情報源として選択される割合が中都市、町村と比較して高い。一方、先輩は中都市と町村で複数のものの一つとして選択される割合が高かった。町村では教科書が選択され、大都市ではインターネットが複数のものの一つとして選択される割合が他と比較して高かった。

性交経験別の違いによると性交経験のある者は友人、先輩、コミックス、AVが複数のものの一つとして選択する割合が、性交経験のない者と比較して高い。恋人が選択される割合も性交経験がある者で高かった。ない者では、教師、教科書が選択される割合が、ある者と比較して高い。

最後に年齢は、学校種別と性交経験との関連が強く、それらと情報源変数との関連を反映している様子が見える。全体的に、年齢が高いほど複数のものの一つとして選択する傾向がある。友人、恋人、コミックス、AVの選択は年齢が高く、反対に親、先輩、教師、教科書の選択は年齢が低い様子が見える。

(3) 性交に関する情報源と性のイメージ

6つの性のイメージ変数について、因子分析を行ったところ、1つの因子が抽出された(表-4)。導き出された一つの因子の成分行列の結果を見てみると、良さ、明るさ、楽しさ、きれいさの重みが高く、軽さも低いながら正の寄与があることが分かる。恥ずかしさについては、負の方向で寄与が認められる。この結果に基づき、高ければ性に対するポジティブなイメージが強いというような因子得点を性のイメージの総合点数とすることとした。

表-4 性のイメージ因子分析結果

	成分行列
明るさ	0.820
楽しさ	0.825
きれいさ	0.757
よさ	0.850
軽さ	0.350
恥ずかしさ	-0.436

表-5は性交情報源と個人の特徴の変数のカテゴリごとの、性のイメージ総合点数と6つの個別イメージ点数の平均点、およびそれぞれの変数の7つの点数に対する一元配置分散分析によるF値をまとめたものである。

性のイメージ総合点数では、親きょうだい情報源とその他情報源を除いたすべての変数について、カテゴリ間の違いが認められた。また教師情報源については、カテゴリ間の違いが他の変数と比較して小さい傾向があった。友人、恋人、先輩情報源は複数で選択される場合に、単一で他のものを選択またはまったく情報源をもたないグループ(「選択なし、情報源1つ以下」のグループ)と比較してイメージ総合得点が高い傾向が見られた。教師は、特に単独のものとして選択される場合に低かった。教科書は、単独で選択される場合、教科書以外の複数の情報源をもつ場合と比較して低かった。コミックスは、単独で選択さ

れる場合低く、複数で選択される場合には高い傾向にあった。AVは選択される場合点数は高い。さらに、インターネットは複数のものの一つとして選択される場合に高いが、単独で選択される場合には低かった。情報源を特にもたない者は、情報源を複数もつものと比較して点数が低かった。性別では、男子の点数が女子より高く、学校種別では中学がそれ以外と比較して低く、特に専門学校の高さが際立つ。地域別では、都市部の点数が高かった。年齢は正比例の関係が見られ、学校種別の結果と整合する傾向を示した。

個別のイメージの点数について、よさ、きれいさ、軽さ、恥ずかしさにおける教師情報源のグループ間の違いが認められなかった。個別の点数の傾向は全体的に、総合得点の傾向と整合するものであった。つまり、明るさ、楽しさ、きれいさ、よさ、軽さは総合点数と同じ傾向（あるグループの総合点数が高ければ、同様に高点数など）であり、一方恥ずかしさは総合得点と反対の傾向（あるグループの総合点数が高ければ、低点数など）となる。異なる傾向が見られたものとして、まず恋人情報源について、複数で選択される場合では軽さの点数は高いが、単独で選択される場合に低かった。先輩情報源は、恥ずかしさの点数において複数で選択される場合に低いのに対して、単独で選択される場合に高かった。学校種別間の違いでは、楽しさの点数が私立大学生で高く、よさの点数でも専門学校生と同様に国公立、私立大学生の点数が高かった。軽さの点数は国公立大学生で高かった。地域別による違いでは、他の5つのイメージの点数が大都市で高く、恥ずかしさについては逆に低いことが予測されるが、反して大都市では恥ずかしさの点数も高かった。

表一6に性交情報源の11の変数すべてを独立変数として、総合点数と6つの個別の性のイメージの点数をそれぞれに従属変数とする7つのモデルのGLMによる統計解析結果を示した。R²乗は性のイメージ総合点数では、0.198であり、変量の約20%が情報源で説明できるという結果であった。個別のイメージで見ると明るさ、楽しさ、よさの点数におけるR²乗が比較的高めでそれぞれ、0.119、0.217、0.165であり、性交の情報源が個別のイメージそれぞれの点数に対して11.9%、21.7%、16.6%の説明力をもつという結果であった。一方きれいさ、軽さ、恥ずかしさの点数ではR²乗値は低く、0.063、0.022、0.050であった。すべてのモデルに共通するF値が有意を示さなかった情報源は、親きょうだい、教師、教科書、その他であった。楽しさ、きれいさ、よさの点数では、これらの情報源に加えコミックスが有意とならなかった。恥ずかしさの点数では、親きょうだい、教師、教科書、コミックスに加え、友人が、さらに軽さの点数ではこれらの5つの情報源に加えてインターネットで有意差が認められないという結果となった。

表一7は、性交情報源を独立変数とするそれぞれのモデルに、個人の特徴に関する5変数を統制変数として投入した7つのGLMモデルの解析結果をまとめたものである。性のイメージ総合点数は0.261、個別のイメージ点数については、明るさ0.147、楽しさ0.271、きれいさ0.103、よさ0.217、軽さ0.026、恥ずかしさ0.093となった。つまり11の性交情報源と5つの個人の特徴の変数は、それぞれの点数の26.1%、14.7%、27.1%、10.3%、21.7%、2.6%、9.3%の変量を説明する結果となり、特に総合点数、楽しさとよさの点数についての説明力が高いことが分かる。

個別の変数を見ると、総合点数では、情報源変数のみの場合から、親きょうだい情報源の違いが表れた。すべての5つの個人の特徴の変数が統計的有意であるという結果が出た。明るさの点数では、情報源のみのモデルの場合から情報源変数に変化は見られず、

表一 性交情報源変数と性のイメージ得点のGLM分析結果

	イメージ総合得点		明るさ		楽しさ		きれいさ		よさ		軽さ		恥ずかしさ		
	R2乗	.198	.119		.217		.063		.165		.022		.050		
	自由度	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値
修正モデル	21	937.130	56.295***	398.338	31.952***	839.945	65.055***	218.551	16.779***	627.401	46.497***	91.678	5.229***	220.466	12.654***
切片	1	9.437	11.906**	1345.664	2266.722***	1424.421	2316.781***	1073.997	1731.487***	1490.137	2319.11***	775.622	928.958***	1458.652	1758.025***
親きょうだい情報源	1	2.030	2.561	1.704	2.870	.039	.065	.901	1.453	.903	1.406	2.290	2.743	1.170	1.410
友人情報源	1	17.464	22.032***	10.727	18.07***	15.522	25.246***	2.681	4.323*	8.813	13.717***	2.626	3.146	2.785	3.358
恋人情報源	1	56.776	71.622***	23.265	39.189***	28.820	46.875***	29.539	47.623***	27.399	42.643***	3.312	3.967*	21.807	26.283***
先輩情報源	1	28.031	35.361***	15.299	25.771***	15.177	24.686***	9.253	14.919***	9.674	15.056***	5.305	6.355*	13.491	16.261***
教師情報源	1	.683	.863	.453	.764	.051	.083	1.527	2.463	.003	.006	.245	.294	.996	1.201
教科書情報源	1	.001	.001	.044	.074	1.232	2.004	1.527	2.049	.045	.070	1.984	2.377	.324	.391
コミックス情報源	1	3.610	4.555*	4.486	7.557**	1.922	3.127	1.798	2.899	1.581	2.461	1.347	1.614	.626	.755
AV情報源	1	116.069	146.42***	49.193	82.865***	94.971	154.469***	22.993	37.07***	75.898	118.121***	4.718	5.651*	37.046	44.65***
インターネット情報源	1	19.731	24.891***	3.767	6.346*	26.237	42.674***	4.488	7.235**	9.558	14.876***	1.509	1.808	9.448	11.387**
その他情報源	1	2.140	2.700	1.154	1.945	.120	.196	1.542	2.487	.974	1.516	.715	.857	1.013	1.221
情報源特になし	0	.000	.	.000	.	.000	.	.000	.	.000	.	.000	.	.000	.
誤差	4791	3797.899		2938.029		3024.953		3049.891		3152.336		4156.319		4149.384	
総和	4813	4736.604		37433.000		41622.000		29480.000		42716.000		24232.000		51646.000	
修正総和	4812	4735.029		3336.367		3864.898		3268.442		3779.737		4247.997		4369.850	

*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001

表一 性交情報源および個人の特徴変数と性のイメージ得点のGLM分析結果

	イメージ総合得点		明るさ		楽しさ		きれいさ		よさ		軽さ		恥ずかしさ		
	R2乗	.261	.147		.271		.103		.217		.026		.093		
	自由度	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値	平方和	F 値
修正モデル	31	1220.291	53.769**	481.785	26.94**	1028.415	57.849**	330.782	17.873**	806.813	43.134**	107.565	4.179**	398.782	16.169**
切片	1	1.869	2.553	95.577	165.673**	72.476	126.381**	48.452	81.154**	83.448	138.299**	64.736	77.961**	157.235	197.622**
親きょうだい情報源	1	2.952	4.032*	1.696	2.940	.616	1.075	1.032	1.728	1.526	2.529	2.894	3.486	1.218	1.531
友人情報源	1	8.067	11.02**	6.316	10.948**	8.082	14.094**	.760	1.273	3.800	6.298*	1.883	2.268	.596	.749
恋人情報源	1	5.241	7.159**	2.290	3.97*	3.171	5.529*	3.926	6.576*	1.008	1.672	.581	.701	1.275	1.603
先輩情報源	1	14.776	20.183***	9.763	16.924***	7.115	12.408**	5.425	9.087**	5.193	8.607**	5.017	6.042*	4.361	5.482*
教師情報源	1	.476	.650	.472	.818	.001	.003	1.522	2.550	.019	.032	.481	.580	.715	.900
教科書情報源	1	.576	.787	.316	.548	.225	.392	2.247	3.764+	.768	1.273	1.024	1.233	.000	.001
コミックス情報源	1	6.304	8.612**	5.492	9.521**	4.357	7.598**	2.076	3.478	2.681	4.444*	1.740	2.096	.000	.001
AV情報源	1	39.714	54.248***	22.106	38.318***	32.197	56.143***	5.696	9.541**	32.240	53.433**	2.249	2.096	4.841	6.085*
インターネット情報源	1	13.530	18.482**	2.699	4.679*	19.611	34.198**	2.443	4.093*	7.110	11.785**	2.085	2.511	5.240	6.587*
その他情報源	1	1.852	2.530	1.030	1.785	.038	.067	1.310	2.194	.883	1.464	.786	.947	.895	1.126
情報源特になし	0	.000	.	.000	.	.000	.	.000	.	.000	.	.000	.	.000	.
年齢	1	7.422	10.138**	.849	1.472	7.284	12.701**	7.216	12.087**	5.341	8.853**	.007	.009	3.566	4.482
性別	1	47.904	65.435***	8.203	14.219***	48.519	84.606***	11.863	19.87**	14.213	23.556**	.264	.319	63.201	79.436**
学校種別	5	42.990	11.745**	14.942	5.181**	34.400	11.998**	10.302	3.452**	44.003	14.586**	8.720	2.101	11.423	2.872*
地域	2	6.580	4.495*	4.132	3.582*	3.786	3.301	3.394	2.843+	4.885	4.048	4.287	2.582	4.496	2.826
性交経験	1	97.535	133.226***	38.238	66.283***	35.309	61.571**	40.229	67.382**	56.128	93.022**	1.961	2.362	75.188	94.501**
誤差	4710	3448.196		2803.737		2769.886		2884.889		2907.729		4056.337		3905.775	
総和	4742	4670.311		36845.000		41050.000		29042.000		42073.000		23744.000		50794.000	
修正総和	4741	4668.487		3285.521		3798.300		3215.671		3714.542		4163.902		4304.557	

*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001

年齢を除く4つの個人の特徴変数において統計的有意差が確認された。楽しさの点数では、情報源変数のみの場合と異なり、コミックス情報源の違いが表れ、地域を除く個人の特徴変数で統計的有意差があるという結果であった。きれいさの点数では、教科書情報源で限界的な有意差が表出し、友人情報源の有意差が消失した。個人の特徴変数については、地域が限界的であるものの統計的に有意という結果であった。よさの点数は、統計的な有意差が恋人情報源で消滅し、コミックスで表出した。地域を除く4つの個人の特徴変数で統計的有意が確認された。軽さの点数は恋人とAV情報源の統計的有意差が消失し、いずれの個人の特徴変数にも統計的有意差は認められなかった。最後に、恥ずかしさの点数では、性交情報源変数のみのモデルとの変化は見られず、性別、学校種別、性交経験でカテゴリ間の統計的有意差があるという結果となった。

5. 考察

本研究における分析結果から、まず性交に関する情報源の選択は個人の特徴により異なることが明確になった。女子はコミックスや雑誌などから、一方男子はポルノ雑誌やビデオとインターネットから性交に関する情報を得ていることが分かった。友人は青少年にとって重要な性に関する情報源であることが分かるが、年齢が上がるほど情報源数も増え、インターネットなどの人以外のメディアが付加されてくる様子が見える。学校現場での貴重な情報源として、教科書は中学、教師は高校生により活用されている傾向が見受けられ、大都市と比較して町村や中都市でも教師や教科書がより活用されている様子が見受けられた。このような視点については、青少年の健全な育成のための社会環境の整備を考える上で、意識されるべきであろう。性に関する情報源の活用において、地域の違いもあることなどから、地域固有の取り組みの有用性も示唆される。

次に、分析結果から、活用している性交の情報源の種類と活用のしかたと性のイメージ、特に明るさ、楽しさやよさといったポジティブなイメージとの関係性も明らかになった。同じ情報源であっても、単独の情報源となっている場合と複数の情報源の一つとして活用されている場合の違いが表れた。たとえば、インターネットやコミックスを性交の情報源と選択する場合、他のものと複合的に活用している場合では、ポジティブなイメージと関連しているが、単独の場合はそれとは反対の傾向がある様子が見受けられた。全体的に、複数の性交情報源の活用はポジティブな性のイメージと関連している傾向があり、これは年齢も関連していることが予測される。個人の特徴の中でも特に性交経験は性のイメージと関連していることが確認された。また、性交経験のある場合に恋人、コミックス、AVを性交の情報源とする割合が、性交経験のない場合と比較して高く、性交経験は性に関する情報源との関連も強い様子がうかがえた。本研究では、性のイメージについて、たとえばハイリスクな性行動との関連するようなものと言うよりはむしろ、中立的なイメージを分析の対象とした。ポジティブなイメージをもつことが必ずしもハイリスクな性行動を助長するともいえず、むしろポジティブなイメージは健全なものであると言えるかもしれない。一般に、複数の情報源を活用することは、視野を広く持ち判断材料とすることができる力である「メディアリテラシー」の高さにつながることも推測されうる。以上から、本研究結果から限定的であるが、複数の情報源から判断材料を得ることができる力をつけることの重要性の確認もできると言えるかもしれない。

友人、恋人、先輩など青少年にとってより年齢の近い情報源が性のイメージと安定的に関連しており、一方で親きょうだいや教師などの「大人」は性のイメージとの関連が薄いという結果となった。また、AV、コミックス、インターネットなどの性のイメージとの関連性が確認された一方、教科書を情報源とした性のイメージとの関連性がないことが明らかになった。これらのことから、同世代間でのコミュニケーションで健全な性に対するイメージを醸成できる社会環境の整備の必要性が確認できる。つまり、周囲の大人がどのようなような接し方をしているのか見直し、青少年を取り巻く環境を理解したうえで、環境に対する規制だけでなく、環境との付き合い方ができる力をつけることを、同世代同士でしていく促しも考えることができよう。

本研究における限界として、まず分析対象としたのは一時点のデータであるため、分析結果から言えることは情報源と性のイメージの関連に留まり、因果関係について言及できない。さらに、本研究では、性のイメージと性に関する行動との関連性を見ることまでしていない。このような分析は、構造化方程式モデルを用いてより高度な分析が必要であり、情報源と個人の特徴の関連のしかたといったさらに詳細かつ複雑な分析と合わせて、次の取り組み課題としたい。

6. まとめ

本研究は、全国的な調査のデータの二次分析により、青少年の性交の情報源の活用状況と情報源の活用のしかたとそれらの性のイメージの関係性について探索した。本稿では、違いや関連性について細かく言及することはできなかった。また、性のイメージと性行動との関連や属性との関係のしかたなど、さらなる分析が必要である。しかし、健全な性行動を導く性のイメージの形成に貢献するような、青少年を取り巻く教育的あるいは社会的社会環境の整備に、綿密な分析結果を活かしていく意義を確認することができたといえる。

【参考文献】

- 1) 財団法人日本性教育協会：青少年の性行動調査，<http://www.jase.or.jp/jigyoyouth.html>，(HPより2011年1月15日入手)，2009.
- 2) 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会：青少年インターネット環境の整備等に関する検討会報告書「青少年インターネット環境の整備等に関する提言」，2009.
- 3) 東京都青少年・治安対策本部：東京都青少年の健全な育成に関する条例及び規則について，http://www.seisyounen-chian.metro.tokyo.jp/seisyounen/08_kaiseijourei_kisoku.html，(HPより2011年1月15日入手)，2010.
- 4) Brown JD and Keller SN.: Can the mass media be healthy sex educators? *Fam Plann Perspect.* 32(5):2000.
- 5) Hoff, T., et al.: National survey of adolescents and young adults: sexual health knowledge, attitudes, and experiences. Menlo Park, CA: Kaiser Family Foundation: 2003.
- 6) 青少年推進育成会議：青少年を取り巻く環境の整備に関する指針－情報化社会の進展に対応して－，<http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/shishin.html>，(HPより2011年1月15日入手)，2001.

- 7) Steele, JDJR. and Walsh-Childers, K. (eds) : Sexual teens, sexual media: Investigating media's influence on adolescent sexuality. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates:2002.
- 8) Miller KS, , et al.: Family communication about sex: what are parents saying and are their adolescents listening? *Fam Plann Perspect.* 30(5):1998.
- 9) Nolin MJ and Peterson KK. : Gender difference in parent-child communication about sexuality: an exploratory study. *J of Adolesc Res.* 7(1):1992.
- 10) Berenson AB., et al. : The relationship between source of sexual information and sexual behavior among female adolescents. *Contraception.*73(3):2006
- 11) DiClemente R. Predictors of HIV-preventive sexual behavior in a high-risk adolescent population: the influence of perceived peer norms and sexual communication on incarcerated adolescents' consistent use of condoms. *J Adolesc Health.* 12(5):1991.
- 12) Beakley, A., et al.: How sources of sexual information relate to adolscents' beliefs about sex. *Am J Health Behav.* 33(1): 2009.

(2011. 1. 17 受付)

RELATIONSHIP BETWEEN SEXUAL INFORMATION AND IMAGES OF SEX

Yoko KAWAMURA

This study examined how Japanese adolescents use sexual information sources and explored the relationship between these information sources and images of sex. I conducted secondary data analyses on the data from the 6th Waves of Japanese Adolescents' Sexual Behavior Survey, which was originally conducted in 2005. The results showed that personal characteristics are related to the types of sexual information sources and ways of choosing them. They also showed specific sexual information sources in terms of the types and usage (with or without other information sources) are related to images of sex. Although further exploration and utilization of advanced statistical methods are needed, this study affirmed the importance of considering various key information sources (e.g., Internet, other media, and people sharing close relations, such as friends and parents) for clarifying the approaches for sexual education. With deeper understanding of such sexual information sources and their influence on adolescents, more effective and appropriate approaches can be strategized for the development of sound sexual attitudes yielding healthy sexual behavior.